

“ふるさとちば”のための政策推進を



# 滝田としゆき たきた敏幸県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## 印旛沼舟戸大橋架け替え 本橋下部工事に着手

千葉県議会随一の保守派論客として活躍する滝田敏幸県議(印西市選出・3期)は12月11日、定例会議会一般質問に登壇。予算委員会を含め現役最多となる28度目の質問戦に臨みました。県道路予算の大幅な増額を要求するなど重要課題のほか、千葉ニュータウン事業、手賀沼・印旛沼水環境、農業振興、部落差別解消などに

ついて森田健作知事はじめ執行部との一問一答を展開。また、県土整備常任委員会副委員長として、本年6月開通予定の東京外環自動車道千葉区間(松戸〜市川間)を視察し、あらためて北千葉道路への接続の重要性を訴えるなど、滝田県議の県政における実行力と発言力がますます高まっています。



12月県議会で道路問題などを質問する滝田敏幸県議

### 12月定例会議会一般質問 印西市・栄町特集号

滝田議員 県道千葉白井印西線は、印旛地域の西側を縦断し、佐倉市方面と千葉ニュータウン地域を結ぶ重要な幹線道路。舟戸大橋

は、この県道の印西市と佐倉市の境にある印旛沼を渡る橋で、印旛地域にとって、地域の生活を支え、また、産業や経済の発展などにも

大きく寄与する重要な橋となっている。しかしながら昭和38年に建設され、老朽化が進み、耐震性にも劣ることから架

け替え工事が進められている。そこがかがうが、舟戸大橋架け換え工事の進捗状況はどうか。

県土整備部長 舟戸大橋は、県道千葉白井印西線の印西市と佐倉市の市境付近に位置し、西印旛沼に架かる橋梁で、耐震性に劣るとともに、歩道も未設置のため、現在、架け換え工事を進めているところです。

平成26年に迂回路となる仮橋の工事に着手し、これまでに、仮橋の設置、作業構台の設置が完了し、旧橋撤去については、印西市側の約半分の撤去が完了したところです。

今年度は、残る佐倉市側の旧橋撤去を行うとともに、新橋の下部工事に着手することとしております。今後とも、早期完成に向けて、事業の推進に努めてまいります。

これまで、側道部と掘割部の交通量の推移や周辺道路の渋滞状況などを調査しながら、草深オフランプについて、円滑に合流できるように、側道部を2車線確保したまま、新たに加速車線を設置するなどの改修案の検討を行ってきたところで

## 北千葉道草深オフランプ 年度内供用開始へ

滝田議員 北千葉道路の草深オフランプは現在、閉鎖されている状況であるが、その間、県では、地元市などで構成する会議で検討を進め、このたび工事に着手したと聞いている。

そこがかがうが、草深オフランプ工事の進捗状況はどうか。県土整備部長 草深オフランプについては、平成25年3月に学識経験者や地元関係者で構成する国道464号千葉ニュータウン地区交通対策検討会議を設置し、円滑な交通を確保するための交通処理方策について、協議してまいりました。

盛土工事を実施しており、今年度内の供用開始に向けて整備を進めてまいります。9月下旬に、我が党の河上茂幹事長はじめ役員からも、知事に対して道路整備に必要な予算確保のための要望が行われた。平成22年から、今年までの8年間、土木費の規模は1100億円前後で推移しており、ピーク時であった平成9年度の3078億円に比べ約4割の状態が現在も続いている。来年度の予算編成に向けて、道路や河川等の社会資本整備が進むよう、予算の増額を要望する。また、全国的に技術者不足の状況であるので土木事務所等の技術職員の十分な確保も併せてお願いしたい。

## 県道路予算増額を要望

要望

滝田議員 わが自民党では、今年

の夏に移動政調会で県下54市町村から重点

その要望の本身は多くの首長や議長長からの切実な陳情で、寄せられた要望数は149、そのうち公共事業関連が81件であり、要望全体の約6割が基盤整備に関わる土木の要望で、これが地方の実態と痛感した。バイパス整備や交差点改良や歩道設置、そして道路の草刈等、これらの声に、県としてもしっかり答えていく必要があるものと考えます。

今年までの8年間、土木費の規模は1100億円前後で推移しており、ピーク時であった平成9年度の3078億円に比べ約4割の状態が現在も続いている。来年度の予算編成に向けて、道路や河川等の社会資本整備が進むよう、予算の増額を要望する。

### たきた敏幸・PROFILE

- 1960年 印西町大森生まれ 大森小、印西中 県立我孫子高校卒
- 1982年 同志社大学卒業
- 1999年 印西市議初当選
- 2003年 印西市議再選
- 2007年 千葉県議初当選
- 2008年 印西市消防団副団長
- 2009年 総合企画水道常任委員長
- 2010年 千葉県ラグビー協会会長
- 2011年 千葉県議再選
- 2013年 総務防災常任委員長
- 2014年 北千葉道路推進議連幹事長
- 2015年 千葉県議3選 千葉自民党政調会副会長 農林水産常任委員長
- 2016年

# 千葉ニュータウン 未処分地は県民の財産

滝田議員 千葉ニュータウン事業だが、平成25年度をもって新住宅市街地開発法の事業期間が終了、平成30年度までを清算期間とし、公共施設の引継ぎや宅地等の処分を積極的に進め、40年に及ぶ都市再生機構との共同施行を解消することとなった。

そこがかがうが、平成31年度以降において県が保有することとなる未処分地や貸付地について、県はどのように管理、処分をしていくのか。

企業土地管理局長 企業土地管理局の単独所有となる未処分地及び貸付地は、平成31年度から当局が単独でその処分や貸付け業務を行うこととなります。

そこで未処分地については、地域の発展を図りながら、早期の処分を行うとともに、貸付地については引き続き、適切に管理してまいります。

滝田議員 県の土木費は10年前に比べ約2割減、20年前と比べると6割以上減少している。土木予算全体が削減されている中、道路などの社会資本の整備費だけでなくその維持管理費も削減されている。

県民生活に直接関係する、草刈りなどの道路の維持管理については、安全な交通

# 「土木予算の増額を」

の確保や沿道環境の保全を図る上で大変重要。しかしながら、県民の期待に十分に込められている状況ではないと思われる。

そこがかがうが、草刈りや舗装補修などの道路の維持管理に関する住民からの要望に対して、県はどのように対応していくのか。

県土整備部長 道路の維

## 20年前と比べ6割減少

持管理については、良好な沿道環境の形成や歩行者を含めた交通安全の確保を図る上で、大変重要であると考えております。

県民からの要望には、十分に込められていない面もござ

います。県といましては限られた予算の中で、新技術を用いた舗装修繕や雑草の発生を抑制するシートの敷設など、創意工夫により、効果的・効率的な維持管理を行っているところでございます。

今後とも、必要な予算の確保に努め、県民の要望に十分に込められるよう、適切な維

持管理に努めてまいります。

滝田議員 バイパス整備や交差点改良、歩道設置、そして道路の草刈等々、これらの県民の声に、県としてもしっかり答えていく必要があるものと考えています。

来年度の予算編成に向けて、道路や河川等の社会資本整備が進むよう、土木予算の増額を要望する。

望 地は、印西市民のみならず県民の大切な財産で

あるので、県や地元印西市のさらなる飛躍につながるような企業の誘致が図られるよう要望する。

## 印旛沼水質汚濁のメカニズム解明へ

滝田議員 印旛沼・手賀沼の水環境についてうかがう。県は印旛沼、手賀沼の水質浄化に向け、今後どのように取り組んでいくのか。

環境生活部長 印旛沼、手賀沼では、湖沼水質保全計画に基づき、下水道の整備、高度処理型合併処理浄化槽の普及促進、雨水浸透施設の設置、農地における肥料投入量の適正化、水生植物による水質浄化などの各種施策を実施しております。

水質悪化の要因には、日常的に流入する汚濁のほか、降雨時に急激に流入する雨水の影響、沼の内部で増殖する植物プランクトンの影響など、様々な事象が複雑に関係していることから、まずはメカニズム解明に向けた調査方法などの検討を進めているところであります。引き続き、計画に基づく事業を着実に推進し、沼の水質浄化に取り組んでまいります。

## 繁茂する水生植物駆除 オニビシ、早期刈り取り



「印旛沼ヒシ刈船」県は土地改良区や漁協と連携し水環境保全を実施

滝田議員 ナガエツルノゲイトウ、オニビシ、ハスなど、繁殖している植物への対応状況はどうか。

環境生活部長 県では、印旛沼、手賀沼の流域に繁殖しているナガエツルノゲイトウについて、今年度も6月から9月にかけて、関係機関、学生等の協働による駆除を実施しました。

さらに、今年度は、手賀沼のハスについて、繁茂する範囲を調査するとともに、繁殖を抑制する有効な手法を検討するため、試行的に刈り取りを実施したところであります。

滝田議員 沼の問題解決に当たり、横断的な取り組み

より高めるため、地元の意見も考慮し、例年よりも時期を早め、オニビシが繁茂し始める前の7月に刈り取りを実施しました。

また、印旛沼のオニビシについては、刈り取りの効果

は、20年前と比べ、ウルグアイ・ラウンド対策事業の終了や、土地改良事業に係る国庫補助金の減額などから大きく減少していますが、効果率、効果的な予算の執行に努めるとともに、生産者や関係団体の努力により、本県農業は全国有数の地位を保持しています。

農業産出額全国第2位を奪還するためには、国内外に向けた販売力強化と、産地



東京外環道・市川JCT工事状況を視察

が必要と思うが、県はどのような取り組みをしていくのか。

環境生活部長 印旛沼、手賀沼については、対策が多岐にわたるため、本年3月に環境、農林水産、河川などの関係部局を集めた会議を実施しました。

の生産力強化を図るとともに、担い手の育成・確保や、農地の集積・集約化などの取り組みを強化することが重要であると考えています。

このため、年内を目途に策定している次期農林水産業振興計画に基づき各種施策を着実に実施するとともに、国の事業も最大限に活用しながら必要な予算の確保に努め、農業産出額の増大と生産者の所得向上を図ってまいります。

望 指の農業県としてのポテンシャルを発揮するために、農林関係予算の大幅な増額をお願いしたい。

●県政と印西市・栄町に関するご相談・ご要望をお気軽にお寄せください。

**たきた敏幸事務所**

〒270-1326 印西市木下1521-125 2F TEL.0476(37)4173